

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901613		
法人名	有限会社ライフステージ		
事業所名	グループホーム ひだまり Aユニット		
所在地	旭川市神楽四条1丁目3番5号		
自己評価作成日	平成29年8月23日	評価結果市町村受理日	平成29年9月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。
 基本情報リンク先URL http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901613-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成29年9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の個性を大切に、なおかつ能力に合わせた暮らしが送れるように支援しています。日常生活では、掃除や洗濯物干し・洗濯物たたみ等をスタッフと共に行い役割を感じて頂いています。皆さんで楽しむ時間や思い思いに過ごす時間を作り、一人一人心地良く生活出来るよう心掛けています。ドライブや外食・敬老会やお祭り等の季節行事を通じて四季を感じて頂けるよう働きかけたり、年に1度近隣中学の福祉ボランティアを受け入れ、中学生との交流で普段とは違う刺激が受けられる機会も設けています。夏季には屋外での広場を活用。ラジオ体操やリズム体操を行ったり、畑のトマト・イチゴを取って食べたりします。花壇の花々を眺めたり、流しそうめんを行ったりと他のユニットの利用者さんとの交流も図っています。体操の後には散歩に出掛けたりと暮らしの中で自然に体を動かす工夫を行っています。また、当施設で配置している看護師が健康管理を行っており、希望によっては医療機関への往診加入も選定でき、各入居者様それぞれ月1~2回の往診を受けられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川駅より車で5分、バス停より徒歩で5分の交通の利便性に優れた閑静な住宅街に開設14年目を迎える木造2階建て(準耐火建築)2ユニット(定員:18名)のグループホームです。毎朝、ラジオ体操やリズム体操を職員と一緒に屋外で行い、睡眠障害で昼夜逆転の利用者など体内時計を整えて規則正しい生活が送れるような支援や毎年、ボランティアの協力を得ながら「ひだまり交流祭り」を開催して、家族や地元の人々との交流・連携の場を設けたり、地元中学校の体験学習や福祉ボランティアの受け入れなどで事業所の持つ機能を地域に還元するなど地域の人々に向けて認知症に対する理解や啓発に努めている。また、利用者の特徴的な一日の様子を「一日一日誌」にまとめ毎月、家族に情報提供していると共に旭山動物園や花菜里ランド見物、旭川駅や北彩都ガーデン訪問、フードコートでの外食等で楽しめごとや気分転換の為に戸外に出かけられるよう支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	メイクハピネスの理念を実践し一人一人の入居者様への幸せを作り出していく事を目標に取り組んでいる。	事業所独自の理念を見直し継続的改善に取り組み、全体会議やユニット会議で話し合い、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日のラジオ体操や近所への散歩で町内の方々と挨拶などを交わし、地域や家族との交流を深めるため毎年ひだまり祭りをやっている。また、中学生の職場体験学習の受け入れも行って。	毎年、ボランティアの協力を得ながら「ひだまり交流祭り」を開催して、家族や地元の人々との交流・連携の場を設けたり、地元中学校の体験学習等の受け入れなどで事業所の持つ機能を地域に還元している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や介護に関わる相談において、地域の方々が立ち寄り聞かれる際、相談にのっている。また、運営推進会議の場等で、情報の提供も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催を設定し、地域・市職員・家族の方々に参加して頂き、日常の様子や行事などの報告をしている。その際、地域住民や家族の以降を参考にし、サービス向上に努めている。	定期的に運営推進会議を開催して、事業所の取り組み状況や日常生活の様子等の具体的な内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やひだまり祭りには、毎回市職員の方にも出席頂いている。また、市主催の研修会には積極的に参加。実施指導ではその都度疑問や対処を相談し適切な処理、情報交換を行っている。	市や包括支援センター主催の研修会参加や日常業務を通じて情報交換を行い、指導や助言を得ながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で定期的に研修会を行い、身体拘束について日常的に職員間で話し合い身体拘束廃止を常に意識して介護にあたっている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を全体会議やユニット会議、内部研修会開催等で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、定期的に勉強会を行っている。虐待の定義を毎回再確認し、日常的に言葉使いなど職員間で話し合い意識して介護にあたっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	情報を知りたいと思われた家族に情報の提供を行う支援をしたり、勉強会や研修会へ参加をしたり、資料等で情報を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、又は解約を行う時には利用者やご家族に納得いくまで十分時間をかけ説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入り口に意見箱を設置したり、目立つ場所に市町村配布の相談窓口を知らせるポスターを掲示している。また、家族が来所した際には、日常の様子を伝えると共に、意見や意見を言いやすい関係を築くよう心がけ、プランにも反映させている。	毎月発行の便りで情報提供していると共に来訪時には話し合う場を設けて、そこでの意見や要望等を運営に反映するよう努めている。また、家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議、ユニット会議でミーティングを行い、意見交換や話し合いの場を設けている。また、日頃から毎日の申し送り等で話し合いの出来る関係を作るよう努めている。	職員の離職は少なく継続したケアサービスをチームケアで実践している。また、全体会議やユニットごとの会議で職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見やアイデア等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数・有資格者など個々の努力に応じて評価している。職場環境や条件の整備にも、改善できる点は職員の意見・要望を聞きながら一緒に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修情報を提供し、積極的に参加を勧めている。また、事業所内でも研修を行い、知識向上に日々努めている。資格取得に取り組む職員に対処しては、必要な資料・情報を提供し、勤務態勢も優遇的考慮を図り応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業者とは研修やポウリング大会が行われる交流などにも参加し、情報交換の機会を得ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から面接の時間を入分取って本人の思いを聞き、家族からも本人に関する情報を提供してもらい理解を深めるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から情報を収集、希望・要望を聞き、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から話し合っていた事をふまえ、本人・家族が今必要としている支援を双方納得のいく形で提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方の趣味や願いを尊重し、共に楽しんでいる。一人一人の思いに共感して互いの関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には、普段の生活の様子を報告し、情報共有に努めている。また、毎日の様子を1行日誌にして記録し、月に1度郵送。家族との絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人、今までの生活歴の情報を収集し、昔からの友人との関係を継続できるよう支援している。	散歩や買い物、旭川駅や北彩都ガーデン散策、地域の行事参加や家族との交流の機会を設けるなど馴染みの人や場所との関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している様子が見受けられた時には、スタッフが間に入り共通点を見つけた話題を振ったり、無理強ひせずゲームやレクリエーションへの参加を促し良い関係が保てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談を受けている。長期入院後に退居された後も、家族から相談や近況報告を受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子や状態を把握し、本人の希望をできる限り実現できるよう個別ケアに力を入れている。	一人ひとりの生活歴や、暮らし方の希望や意向を把握して、アセスメントを通じて職員間で情報を共有し、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から、今までの生活歴や趣味・嗜好を聞いたり、利用していたサービス事業所から情報収集をしたりと把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の身体状況の変化を把握し、介護記録等に記入して全員が現状把握出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を確認し、日々の申し送りやミーティングなどで、情報交換し、評価・課題の検討を話し合っている。必要に応じて医療機関・専門機関に相談し、より良い生活が送れるようケアプランに反映させている。	本人・家族の意向や要望、医師・看護師からの指導や助言、モニタリングやユニットごとの会議で職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画が記入されている介護記録に、日々の様子やケアの実践結果を記入し、情報の共有をすると共に、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、病院への受診や往診、買い物や外出・訪問理美容等、柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生員・町内会長には運営推進会議に参加して頂き情報交換を行っています。消防訓練を通して消防機関とも連携を図り、安心・安全な生活が送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望・同意の元、かかりつけ医を決定している。個々に応じて定期往診を受け、緊急時も24時間対応を確保している。	往診や訪問看護との連携、通院や日常の健康管理で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師勤務日には日常の様子や健康上の疑問・問題点を報告し、処置の仕方やアドバイスをもらっている。また、職員では把握しきれない健康管理や医療機関への連絡対応など速やかな対応が取れるよう務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時から職員が同行しているため、入院前から医療機関・家族と情報を共有している。入院中も訪問し、経過の確認を行い退院・今後の状態説明の話し合いの際には家族と一緒に医師の説明に同席させてもらい退院後の受け入れ準備をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で大まかな終末期の希望を本人・家族から伺っている。重度化してきた場合、その都度家族・施設・医師と終末期のあり方を再確認し、当施設が出来る事を十分に説明し、同意のもと医療との連携を強化し、家族の理解と協力を得ながら職員一丸となって終末期に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有し、提携医療機関と連携してチームで支援できるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルもあり、日頃から家族や医療機関とも緊急時の対応を話し合っている。勉強会で緊急時を想定したシミュレーション対応の練習を行うなど常に意識している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回防災訓練を行っている。	緊急時を想定した訓練の実施や消防署の協力を得ながら年2回の防災訓練を実施している。	自然災害(地震・水害等)において、全ての職員が対応、避難誘導ができるよう対策を検討しているため、その実践に期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけ「自分でやれる」誇りを大切にしながら、本人のプライバシーに対しても十分配慮した言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように全体会議やユニット会議、日常業務を通じて職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者に関わりかけ、選択・決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	規則正しい生活を送るために1日のスケジュールに沿って声掛けや誘導を行っているが、その日の体調や気分によって起床や食事時間を変更したり、入浴日も変えたりしている。また、レクリエーション等の希望を聞きやりたいことが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを重視し、自分で選んだ服を着たり季節に合った衣服をスタッフが選んだりしている。訪問理美容で毛染めやパーマをかけたり、爪切りや髭剃りの支援も定期的におこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた形状や量で提供しており、誕生会ではリクエストを聞き取り入れている。食事の準備や後かたづけでは、おしぼりを丸めたり、茶碗拭きをお手伝いして頂いたり出来る範囲で行っている。	時には、フードコートでの外食や屋外での焼き肉など食事が楽しみなものになるよう支援している。また、一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や後片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量を毎回記録し、個々の摂取量を把握している。気温や体調・状態に応じて水分の増減、食事の形状を工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいを行っており、個々の状態や能力に応じて道具を工夫する等して口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、記録をつけスタッフ間で認識を統一している。声掛けや誘導を行いその方にあった排泄の習慣を支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日施設での手作りのヨーグルトを提供したり、ラジオ体操や散歩で体を動かす機会を作ったりと予防に努めている。また、一人一人の排泄パターンを把握し、下剤や坐薬を調節している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回の入浴となっているが、その日の体調や希望に合わせて変更が可能になっている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣、健康状態に応じて週2回を目安に柔軟な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活状況に合わせて、ゆっくり過ごせるよう心がけ、利用者の睡眠状況を把握するよう務めている。夜間眠れない時にはホールで温かい飲み物を提供したり、話を聞いたり状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はスタッフ全員がいつでも見られるようにしており、薬に変更があった時には連絡ノートで全員が周知するようにし、その後は様子観察に務め記録記入を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に合わせ、食器拭き・掃除・洗濯物干しやたたむ事等行っ頂いている。入居者によっては絵を書いたりラジオを聞いたり、人形と遊んだりと個々の楽しみに応じている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中外でラジオ体操をしている為、その流れで希望された方は散歩に出ています。テラスも利用し、日光浴やお茶の時間を過ごしたりと少々の時間でも外の空気に触れられるよう支援している。なお、個々の希望に沿って買いもの等に出掛ける支援もしている。	旭山動物園や花菜里ランド見物、旭川駅や北彩都ガーデン訪問、フードコートでの外食等で楽しみごとや気分転換の為に戸外に出かけられるよう支援している。また、毎朝、ラジオ体操やリズム体操を職員と一緒に屋外で行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に合わせた対応をしている。事業所側でお小遣いを預かり買い物機を作り自分で選んだり、支払う際支援している。ご家族了承のもと本人の希望でお金を所持している入居者の方は時々職員が確認をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際は電話をかけた、取り次ぐ支援をする。手紙が届いた時も、手渡したり能力に応じて読み上げる支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、季節感のある飾り付けで四季を意識できるよう工夫し、テレビや音楽をかける際には音量に気を付けて不快にならないよう配慮している。室温・温度・換気を調節し、心地よく過ごせるように環境整備を意識している。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間は、清潔感が漂い、季節ごとの飾りつけなどで生活感や季節感を採り入れ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブル以外でもソファを数カ所配置、冬以外はテラスにもイスとテーブルを置き思いの場所で自由に過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで暮らしていた時に使用していた家具や好きな物を持ち込み少しでも居心地良く安心して過ごしてもらえるようにしている。	居室には、使い慣れた家具や寝具、小物等を持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内の本棚の位置を取りやすいように下げたり、テラスへ出る際、わかりやすい位置に靴を置き、イスを設置する事で一連の行動がスムーズにいくよう配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901613		
法人名	有限会社ライフステージ		
事業所名	グループホーム ひだまり Bユニット		
所在地	旭川市神楽4条1丁目3-5		
自己評価作成日	平成29年8月10日	評価結果市町村受理日	平成29年9月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901613-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジент株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成29年9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旭川駅から車で5分の場所に当ホームがあります。周辺には堤防があり、閑静な環境の中にあります。平成16年に開設されたグループホームです。夏季期間は、外で青空ラジオ体操・リズム運動をしております。その後は皆で水分補給や畑の作物を味見したり、自由行動をしていただいています。当グループホームでは、「メイクハビネス」という基本理念を基に、ハビネスプランを作成し入居者の「幸せ作り」に挑んでいます。また、利用者様の日々の様子がご家族様にも解るように、日常の様子を毎日一行日記に職員が記録しております。健康管理では、往診や受診の様子を記録に残し、薬の変更等もご家族様にご理解いただけるように、書面でお伝えしております。日常では看護師を置き、体調の変化等早期発見に心掛けております。訪問診療医に、定期的に入居者様の健康管理をして頂いています。利用者様やご家族様にとって、安心できる施設を目指し、一人一人個別の対応を大切に考え全力で支援いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ふれあい」「支えあい」「思いあい」「語りあい」「広げあい」5つの愛を掲げ、実践につながるように努めます。また「メイクハピネス」という基本理念を基にハピネスプランを作成し「個々の幸せ作り」に職員全員で挑んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中学校で、毎年体験学習の一貫として、当ホームで体験活動を受け入れております。また年に一度施設のお祭りに、地域の方々に参加していただいております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個々の認知症状を把握し、穏やかに過ごして頂けるよう努めています。地域の中学校の生徒さんの体験学習など受け入れも行っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回、地域の方、市の職員、入居者様の家族、知見者等の参加を頂き情報交換を行い、サービスの向上に活かしております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市の職員に参加して頂き情報交換を行いケアサービスの向上に活かしております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の申し送りで、拘束はなかったかを確認しています。玄関は施錠せず、オープンにしています。入居者の方が自由に行動できるよう常に心がけています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議で、虐待防止の勉強会をして、認知症に対する正しい知識をしっかりと持つよう心がけています。また、スタッフ一人一人の悩みが問題を共有し合いチームとして解決するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学び、必要時に適切な判断をし活用できるようにしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書を用いて、説明しています。不安や疑問については、気軽に質問していただけるよう、環境作りに気を配っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の入口に意見箱を設置させていただいたり、毎月の通信でも「何か気になる点や意見があれば教えてください。呼びかけています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人一人が発言しやすい環境作りを行い、月一回の全体会議、毎日の申し送りの他、個人面談等の機会を設け、職員の意見等を聞き、ケアの向上に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数、資格、個々の努力や柔軟な対応に対し評価をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修など、勤務を調整しただけ全ての職員が参加し、その内容を全員で共有できるようにしていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホーム協議会に入会しており、定期的に研修や交流会があり参加しております。また地域包括支援センターの研修などで、意見交換をしたりサービスの向上に繋げています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族のコミュニケーションを図り、不安な事や要望等を確認し、ケアの充実を図り、信頼関係が築けるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	第一印象を大切にし、環境を整え家族との話し合いの場を作り、多くの情報を収集し安心して生活できるように努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いを通して、ご本人・ご家族の不安なことや求めている事を把握し、要望を受け入れ必要に応じて支援、サービスの利用ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各個人の性格や、生活歴を把握し、それに応じた支援に努めています。新しい発見を日々求めハピネスプランに繋げています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、ご本人のお話を聞き、信頼関係が円満に進むようサポートし、ご本人の状態や変化を伝え、ご家族との関係を良好になるように心がけています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、友人などが、来設しやすいように心がけています。行きたい場所等を聞き、ドライブコースに入れていきます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前中、3ユニット合同で、ひだまり広場にてラジオ体操、リズム運動をしています。体操終了後に、参加した皆さんと麦茶や畑で採れた作物を味見したりしながら親睦を深めています		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を終了し退去された後も、ご家族からの相談を受けたり、施設のお祭りに参加していただいたり関係を大切にしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人思いや希望を聞き、日々の変化を確認しながら、出来るだけ希望に添えるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活や希望をご家族から伺い、配慮していきたいと思えます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の経過を記録に残し、スタッフ間での情報を共有し、日々の変化を見逃さないように努めます。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に思いや意見を聞きモニタリングを行い月1回の会議やミーティング、日々の申し送りや話し合い、意見を出しあい介護計画に反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別に介護記録を記入し、申し送りをしています。出来る事をみつけ、情報を共有し実践するように心がけています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族のニーズを聞き、希望により近い支援の提供を務めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会に加入し、町内の行事計画への参加「思いやり」の配布等で、地域住民の理解を得られるように努め、ラジオ体操やご近所への散歩等を通して交流をする事で、グループホームが地域の中に在るという本来の意味にも繋がるのではないかと思います。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の体調や、意志を尊重しながら入浴しています。原則として、週2回入浴ですが、本人の希望や状況に応じて柔軟な対応をしています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化が見受けられた場合、全職員が引き継ぎにて、状況を把握し看護師やかかりつけ医に連絡しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、本人の支援に関する情報を医療機関に提供し、入院中も病院関係者との情報交換をし、常に連絡を取り合える関係づくりをしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する指針を定め、ホームとして出来る事を家族に十分に説明し、話し合い、主治医や看護師と連携をとり支援していきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、担当医に指示をいただき、的確な対応ができるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定し、年2回消防訓練をしてマニュアルを作成しています。消防署の協力を得て、経路の確認、緊急時の対応の仕方など訓練をしています。また本物の消火器を使い、職員が体験を致しました。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、プライバシーを損なわない様に個人に合わせた対応を心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き入れ、理解して自己決定ができるように心がけています。また本人が、思いや希望を表しやすいような、声のかけ方、環境作りをできるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人のペースに合わせるようにして、どのように過ごしたいか希望を聞き、希望に添って支援していきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの服を選択していただいて支援しています。美容院は、2ヶ月に1度、訪問でお願いしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食介が必要な利用者様には、「美味しいですか？」など、楽しい声かけをしながら食介を進めています。後片づけが可能な方には、お手伝いをお願いしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分表や室温に気を配り、十分な水分量が摂取出来る様にしています。食事は個々の病歴、バランスなど重視していきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔状態に応じたケアをしています。食後は口の中に食べ残りがないように確認し口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々のパターンに合わせています。排尿困難な方は腹圧を、立位困難の方には二人介助で行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトを摂取していただき、適度な運動や水分補給に気をつけています。3～4日排便が出ないときは、処方された坐薬を使用させていただいております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	ご本人の体調や意思を尊重しながら、入浴しています。原則として、週2回の入浴ですが、本人の希望や状況に応じて柔軟な対応をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やその時々状況を見て、居室で休んでいただき、安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋の一覧を壁に貼り、その都度確認をしています。薬が変更になった時には、連絡ノートに記入し、全員が周知できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人一人の生活歴と現在の状況を考えながら、出来る事と出来なし事への支援をしていくように対応しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良く暖かい日には近所や堤防を散歩に出かけております。また日課として、外でラジオ体操を行う事で、普段なかなか外出できない方達も参加しております。季節によっては、お花見・紅葉・動物園・外食等を予定しております		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に合わせて対応しています。ご家族の希望で、事務所で預からせていただき必要な時に使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字を書くことのできる方は、筆字の練習をしたりご家族宛てに一行日記を書いたりしています。理解の難しい方には、年賀状など職員が代読しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度計、湿度計を見ながら調整をしています。居室の窓には、スタレをかけて暑さ対策を実施しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が、ソファで雑談をしたりカラオケ、DVDなどで過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は、使い慣れた物を使用し、本人の好みに合わせて小物を置いたり、写真を飾る等安らぎのあり居心地のよいお部屋づくりを工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室温、湿度の調整や、お花を飾ったり、季節に応じた飾り付けをし、入居者さんが居心地よく過ごせるように工夫しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームひだまり

作成日: 平成 29年 9月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	35	地震・津波の災害時の避難対応を、自主的に行動できるようにしたい。	さまざまな自然災害において、全ての職員が対応、避難誘導ができるようにする。	シミュレーションを用いて研修していきたい。また近隣等にも災害時の応援をお願いしていく。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。